

心のとびら

弥富市立桜小学校
道徳通信
No.2
平成26年6月23日

家庭・地域社会との連携を一道徳通信の活用を通して

6月15日（土）に行われた「ふれあい学級」では、全学年とも道徳の授業を公開しました。授業では、保護者参加型の授業やゲストティーチャーとして保護者に参加していただいた授業もありました。

児童は、いつも以上に集中して話し合いに参加することができました。保護者の皆さまのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

1年松組「お世話になっている人に感謝して」

「自分たちの世話をしてくれる人々に気づき、感謝しようとする気持ちを育てる。」

『私たちの道徳』の挿絵を見ながら、気づきを発表しました。自分が毎日楽しく生活できているのは、交通指導員さん、公園の掃除をしてくれる人など周りの様々な方々がいてくれるおかげだということに、友達の発表から気づいていきました。その後、おうちの方にありがとうカードを書きました。『いつもごはんをつくってくれてありがとう。おみそするがおいしいです。』などと書いたカードを温かい雰囲気の中、おうちの方に渡しながらかつて伝えることができました。



1年竹組「お世話になっている人に感謝して」

「自分たちの世話をしてくれる人々に気づき、感謝しようとする気持ちを育てる。」

『私たちの道徳』の挿絵から、普段どんな方にお世話になっているかを発表しました。気持ちよく楽しく生活するために、いろいろな方にお世話になっていることに気がきました。

その後、お家の方々への感謝の気持ちを表すために、手紙を作りました。感謝の気持ちを文と似顔絵で表して、手渡しました。



2年松組「くろぶたのしっばい」

「みんなが使うものを大切に、約束やきまりを守ろうとする意欲を高める。」

主人公であるくろぶたは、「人に気付かれなければきまりを守らなくてもよいだろう」と思い、勝手にごみを捨てようとしています。しかし、他の動物から指摘を受け、自分一人ならいいと考えていたことを反省します。

身近な動物たちを通して、自分の問題として捉え、みんなで考えていきました。みんなが気持ちよく生活するためには、周りのことを考え、みんなの使うものを大切にする心や約束、きまりを守ることが大切であると気付くことができました。



2年竹組「森のともだち」

「友達と仲良くし、励まし合って生活しようとする気持ちを育てる。」

みんなで共に学校生活を送っていく中で、誰かが失敗したときや困っているとき、どんな言葉がけをすると、お互いが気持ちよくなれるか、なかよく遊ぶことができるかを考えました。最後に、子どもたち一人一人が、これまで友達にしてもらって嬉しかったことや、嬉しかった言葉がけを振り返り、友達のことを思った言葉がけをすることを大切にしようという気持ちを高めました。



心のとびら

弥富市立桜小学校
道徳通信
No.3
平成26年6月23日

3年松組「おばあさん」

「だれにでも親切にし、ほかの人を思いやる気持ちを高める。」

バスの席に座れなくて困っているおばあさんになかなか声をかけられない主人公の「わたし」が、やっと席をゆずれたときの気持ちをみんなで考え、「すっきりした」「うれしかった」「よかった」という気持ちに共感し、これから、いろいろな人に親切な行為をしてたくさんの人を喜ばせたり、よい気持ちにさせたりしていこうという気持ちを高めました。



3年竹組「ことばのまほう」



「礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接しようとする意欲を養う。」

ゲームソフトを買いに行った「ぼく」が、ぶつかった男の子にどなると相手もどなり返してきたという場面と、スーパーマーケットで「ぼく」がぶつかった男の子に「ごめんね」と言われ、互いになっこりと笑顔を見せることができたという場面の、子どもたちが日常的に体験しやすい対照的な2つの場面を役割演技をし、自分の対応によって結果が変わるといふ礼儀の大切さについて考え、よりよい対人関係を築くために気をつけようという気持ちを高めた。

4年松組「雨のバス停留所で」

「きまりを守って生活する。」

社会の中で、きまりを守って生活することは大切です。順番を守らず自分のことしか考えない主人公の気持ちを考え、グループで話し合いをしました。保護者の方から、「きまりを守って生活することが改めて大切である」ことを自覚できたという感想がありました。明るく生活するために、周りのことを考えて行動する気持ちを育てていきたいです。



4年竹組「ブラッドレーのせいきゅうしょ」

「親への深い愛情に感謝し、家族の一員として尽くそうとする心情を育てる。」

家庭でのお手伝いの内容や様子について発表し、資料を通して、親の子に対する思いを考え、見返りなしで大事に思ってくれている家族の思いを話し合いました。そして、その思いを手紙に書いてお家の人に伝えました。子ども達は、「これからは進んでお手伝いをします」や「いつも家事をしてくれてありがとう」など手紙に書いていました。

き り と り

道徳の取り組みへの感想、または、地域でのちょっといい話がありましたら、お寄せください。

() 年生保護者
提出先：担任

心のとびら

弥富市立桜小学校
道徳通信
No.4
平成26年6月23日

5年松組「ちびまるちゃんと学ぶ大切な3つのお話」

「お金は限りがある大切なものであることに気付き、金銭を大切にし、計画的にお金を使おうとする気持ちを高める。」
ほしいものがあつたときに、どのようにして手に入れているか、自己の生活を振り返りました。その後、ちびまる子ちゃんのお話を視聴し、「買わなくてもよかった」と思った経験について話し合いました。最後に「買わなくてもよかった」と後悔しないためには、どうしたらよいかを考えました。本当に必要かどうか、よく考えて買うことが大切であるとの意見が挙がりました。



5年竹組「有り難う」

「日々の生活の中で多くの人々から支えを受けていることに気付き感謝する気持ちをもつ。」

日々の生活にある「当たり前」と感じている事柄を一つあげ、そこから関係している資源や商品、関わる人々を拾いあげることで多くの支えから成り立つことに気付きました。

また、身近な支えてくれる人として、保護者に日頃どんな気持ちで支えてくれているのかをインタビューし、有り難うの気持ちを改めて感じた。

6年松組「有り難う」

「日々の生活の中で多くの人々から支えを受けていることに気付き感謝する気持ちをもつ。」

普段何気なく当たり前のように行っていることがあります。しかし、実はそれを支えてくれている人たちがいるということ、多くの人たちとのつながりの中で生活していることに気づきました。「有り難う」は「ありがたいこと」。保護者の方々の思いにふれることで、「当たり前」のことに「ありがたい」という気持ちを込めて、支えてくれる思いに応えようという気持ちを高めました。



6年竹組「手品師」

「うそ偽りのない行動をして、誠実に生活をしようとする気持ちを高める。」

男の子との約束を守るのか、自分の夢が叶うチャンスをつかもうとするのか、迷う手品師の気持ちを考えた。そこで、自分の心の中の良心に従って判断したことをやり遂げるすがすがしさを感じることを通して、明るい心で生活しようとする心情を育てる。